

「労働安全衛生研究」原稿作成の手引き

(平成 26 年 6 月 5 日作成)

1 原稿の作成

当研究所のホームページにある原稿執筆用ファイル (MS-Word) を使用した、またはそのフォーマットファイルの体裁に準じて作成されたカメラレディー原稿を 3. レイアウトおよび 4. 執筆要領に従って作成する。

原稿執筆用ファイルを使用せずに図表の配置を含むレイアウトを事務局に一任する場合は、4. 執筆要領に従って作成されたテキストファイルを作成する。なおレイアウトを事務局に一任した場合、原稿執筆用ファイルを使用した場合よりも掲載までの期間が長く必要となることに留意すること。

2 原稿の種類

原稿の種類は以下の通りである。原稿の種類に対応した項目を記載する。

	和 タ イ ト ル	和 著 者 名	和 文 要 旨	キ ー ワ ー ド	脚 注	文 献	英 タ イ ト ル	英 著 者 名	英 文 要 旨	Key words	英 脚 注
巻 頭 言	○	○			○						
原著論文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総 説	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
事例報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
短 報	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
調査報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
資 料	○	○	○	○	○	○					
技術解説	○	○	○	○	○	○					
研究紹介	○	○	○	○	○	○					
レター	○	○			○						

注：原著論文、総説、事例報告、短報及び調査報告の末尾には、英文でタイトル、著者名、要旨、Key words、脚注を記す。

3 レイアウト

1) 用紙サイズ

原稿を作成する用紙サイズは A4、原稿印刷設定を横書き、見開きのページとし、マージンは上 22mm、下 18mm、内側 21mm、外側 20mm とする。

2) フォント、句読点等

(1) 和文文字の漢字、かな、カタカナ 本文中は MS 明朝、見出し等は MS ゴシックを使用し、全角を使用する。

(2) 英数字 Century、ギリシャ文字は Symbol を使用し、半角を使用する。

(3) 句読点 「, (全角カンマ)」と「. (全角ピリオド)」に統一する。ただし、数量 3 桁カンマと小数点は半角とする。

3) 文字の大きさ

タイトルは 15pt、著者名は 11pt、本文 9pt、脚注 7pt、文献リストは 8pt(本文中の文献の番号は 9pt の上付き)、各頁の注は 8pt とする。末尾の英文部分では、タイトルは 13pt、著者名は 11pt (姓は頭文字以外は小型英大文字)、要旨、Key words は 9pt、脚注を 8pt とする。

4) 段組と文字数

タイトルページのタイトル、著者名及び要旨と末尾の英文部分のタイトル、著者名、要旨は 1 段組、本文は 2 段組とする。本文 1 段の文字数は 25 字詰×52 行とする。2 段組の段間は 3.23 字とする。本文のみの刷り上がり 1 頁は 1,300 字とする。

4 執筆要領

1) タイトル

簡潔でよく内容が理解できるようにする。

2) 著者名

原則として和文であるが、外国人の著者名は英文等の表記でもよい。PDF ファイルにおいて印刷時に文字化けしそうな著者名については原稿作成の際に外字フォントの扱いが可能かどうか編集事務局にたずねること。

3) 要旨

要旨は 600 文字以内で、図表を含めず、簡潔に記すこと。

4) キーワード

原著論文、総説、事例報告、短報、調査報告、資料、技術解説、研究紹介には 6 語以内のキーワードを付ける。

5) 脚注

原稿の受理日は、受理後に編集事務担当より連絡されるので、投稿時は記載のスペースを作成しておくこと。原稿受理に続いて西暦で年月日を入れる。著者名に対応した所属とその連絡先、連絡者の E-mail アドレスを記載する。

6) 本文

(1) 文体 文語調「である。」「ている。」に統一する。原則として常用漢字、新仮名づかいとする。

(2) 見出し 文章は章(見出し 1)「1 ……、2 ……」で中央揃え、節(見出し 2)「1 ……、2 ……」、項(見出し 3)「(1) ……、(2) ……」で左揃えで 1 字下げとする。各見出しとも太字とする。各見出しの数字の後は全角 1 字空けてください。節(中見出し)以下は、1 字空けて本文をつづけて入れてください。

7) 術語

各分野の文部省学術用語集(、同増補版)等を参考にし、できるだけ一般的なものを用いる。原稿中の表記は統一する(同じ述語で英文と和文の混在はさせないこと)。

8) 単位・記号

(1) 単位 SI 単位を使用する。単位の記載はローマ

ン体とする。記法については、「JIS Z8203 国際単位系(SI)及びその使い方」等を参照のこと。本文中に使用する数字をとみなす単位には () をつけない (例 10 km, 10 m/s)。記号を用いた場合には, [] をつける。(例 ρ [kg/m³], v [m/s])

(2) 記号 元素記号等はローマン体, 物理量はイタリック体を使用する (ただし, ベクトル, テンソルはボールドにする)。(例 直線 A, b 点, Fe, i (電流))

9) 数字, 数式

括弧の順序は, [{}()] とする。独立した数式には必ず式番等を (1) のように示し, 式番号は通し番号とする。数式はイタリック体で表す。ただし, 演算記号 (log, ln, sin, exp, lim, d (微分), Re, Im など), 虚数単位 (i, j など) はローマン体とする。

10) 本文中の注

本文中の注はできるだけ避ける。やむを得ず記載する場合は, *1,*2…等の記号で示し, 記載する頁内の脚注に簡潔な文章で記載する。

11) 参考文献

文献の引用は, 本文中では引用した順に通し番号を肩につけ, それぞれの文献を原稿の末尾にまとめて記載する。著者が複数の場合は全著者名を和文の場合はフルネームで, 英文の場合は姓+名前のイニシャルで書く。和文の文献は姓と名前, 英文の文献は姓が先に, 名前のイニシャルが後に入ります。引用の文献が複数ある場合は, 「,」(2 文献)や「-」(3 文献以上)を使用する (例 1,3-6)。基本的な参考文献の示し方, 記載例を以下に示すが, その書式と電子媒体およびホームページ等の引用は下記に準じるものとする。

http://www.nlm.nih.gov/bsd/uniform_requirements.html

(1) 雑誌 著者名. 論文のタイトル. 雑誌名 (英語の場合は略.・立体). 発行年(西暦); 巻(号): 引用始頁-引用終頁. の順で記載する。

(2) 単行本 著者名. タイトル. 編者名+編. 書名. 発行所所在地: 発行所; 発行年(西暦): 引用始頁-引用終頁 (全体引用の場合はいれない) . の順で記載する。

(3) 例

- 1) Goodfellow HD, Graydon WF. Photochromatic system of an acid-sensing porphyrin. *Can. J. Chem. Eng.* 1998; 46: 120-125.
- 2) 山田太郎. 職場での浮遊粉じんとその人体への影響. 産業衛生学会雑誌. 1994; 18: 15-20.
- 3) Abend S, Keywell C. Integrating clinical trial data into practice. *Headache.* 2002; 42 Suppl 2: S88-94.
- 4) Schmitt G. Determination of principal stress fields from ultrasonic deflection patterns. *Proceedings of 1st Symposium on Ultrasonic Inspection, Tokyo (1980),*

Jpn. J. Appl. Phys. 1981; 20 Suppl. 10: 161-166.

- 5) 松島美雪, 中低層様建築物の防震対策の一手法. 建築学会構造系講演論文集'96. 1996 : 51-52.
- 6) 森川国靖. 繊維製造プロセスと環境対策. 繊維学会編. 合成繊維便覧. 丸善; 2003: 394-396
- 7) Happer WR. *Contact and Frictional Electrification.* London: Oxford; 1967: 163-165.
- 8) 山田一郎, 海野次郎. 塑性力学. コロナ社; 1995.
- 9) 山田二郎. 蒸気ボイラ. 特公 H08-100100.1996.
- 10) White AG. Production method of thermal conductive catalyst. U.S. Patent No.123456780. 1988.

(4) 引用に際しての注意 文献は原則として, 一般に検索可能な公刊文献に限る。社内資料, 未発表論文, 私信等, 入手困難, 検索不可能な文献の引用は避けること。また, 同, *ibid*, *idem* は用いないこと。ホームページの記事を引用する際は, 記事を手に入れた日付を URL の後に記載する。

12) 図・写真, 表

図, 写真, 表では, タイトルとその中で用いる文字は 8pt 日本語とし, 各々図 1, 図 2・・・, 写真 1, 写真 2・・・表 1, 表 2,・・・とする。

図・写真, 表とも本文中の記載箇所がわかりやすい位置で, コラムの上あるいは下に寄せて配置する。

(1) 図 図の文字は 7 pt 程度で, 罫の太さは 0.2 pt 以上とする。グラフ等の網かけは 30%以下を用いない。グラフの記号は○, △, □, ◇, ●, ▲, ■, ◆, ◎などパソコンで一般的使用する記号を使用し, 文字化けが起きないようにする。図には, 写真はスキャナやデジタルカメラでとったものを図と同じように取り込む。

(2) 写真 写真は解像度を低くしても鮮明なものを使用すること。

(3) 表 表の文字は 8 pt 程度で, 罫の太さは 0.2 pt 以上とする。

13) 英文部分

原著論文, 総説, 事例報告, 短報, 調査報告の末尾には, タイトル, 著者名, 要旨, **Key words**, 脚注で構成される英文を記す。英文は十分に吟味し, 投稿する前に **Native Speaker** に確認してもらうことが望ましい。

(1) タイトルは簡潔でよく内容が理解できるようにする。

(2) 要旨は 200 語以内とし, 図, 表を含んではならない。

(3) **Key words** は 6 語以内とする。

(4) 脚注には著者の所属先を記す。